家畜衛生 いずも

H25年度 No.3

2014. 3月

島根県東部農林振興センター出雲家畜衛生部（出雲家畜保健衛生所）

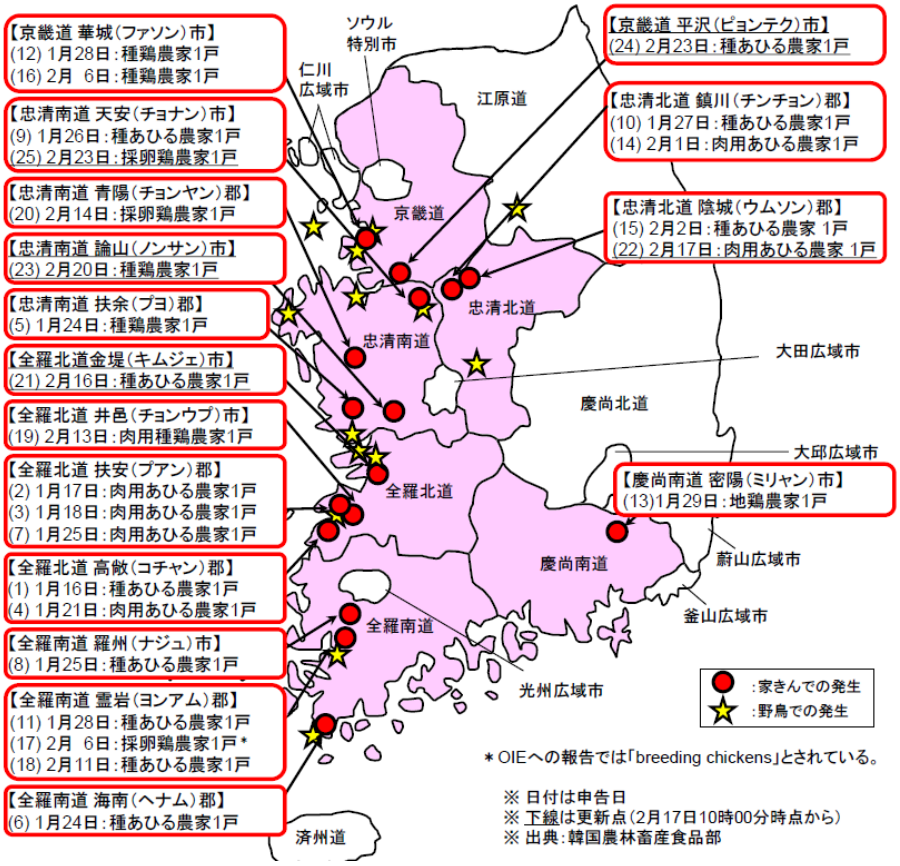
〒699-0822 出雲市神西沖町 918-4　TEL(0853)43-7900　FAX(0853)43-2801

★韓国における高病原性鳥インフルエンザ（H5N8 亜型）の発生状況

韓国当局によると、これまでに 6 道の計 25 戸の鶏及びあひる農場において発生が確認され、402万2千羽が殺処分されました。この他 101 戸の農場において高病原性と断定されていませんが、H5N8 亜型のウイルスが分離されています（2/25 現在）。また、野鳥からも本病ウイルスが分離されており、韓国当局は発生の原因を渡り鳥による同ウイルスの侵入と推定しています。

2007年および2012年に国内で高病原性鳥インフルエンザ（H5N1 亜型）が流行した際は、いずれもその約1ヶ月前に韓国で発生してします。また、2007年の国内で流行した際、韓国での発生地は西海岸地域（初発は、全羅北道）でしたが、今回も同じく西海岸地域を中心とした発生となっています。

3 月に入りましたが、今後、東アジア地域に厳しい寒波が到来するようなことがあれば、韓国に飛来している渡り鳥が南下し、本病ウイルスが我が国に持ち込まれることも考えられます。また、国内では、水鳥類が少ない山間地の養鶏場で、しかも関係者以外の訪問があまり無いようなところでも発生しており、農場内にウイルスを持込む可能性がある人、物、野生動物などにも細心の注意が必要です。飼養衛生管理基準の内容を再度検証し、点検と迅速な改善で農場防疫に万全を期す必要があります。　（前原）



★豚流行性下痢(PED)が流行しています！

PED発病哺乳豚

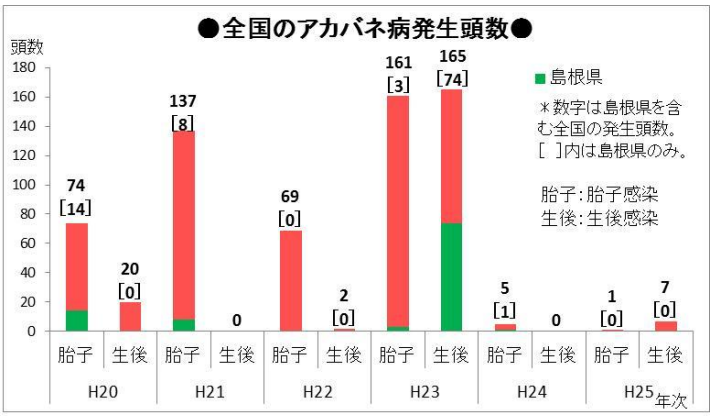
国内では 7 年ぶりに PED が沖縄県で発生し、昨年末より南九州を中心に過去の発生を遥かに上回る規模で流行が拡大しています。

PED はコロナウイルス科に属する豚流行性下痢ウイルスによって惹き起こされ、下痢、嘔吐等の消化器症状を示し、10 日齢以下の哺乳豚が高率に死亡します。現時点で報告されている発症頭数は、3 万頭以上で死亡頭数は哺乳豚を中心に 5 千頭を超えました。

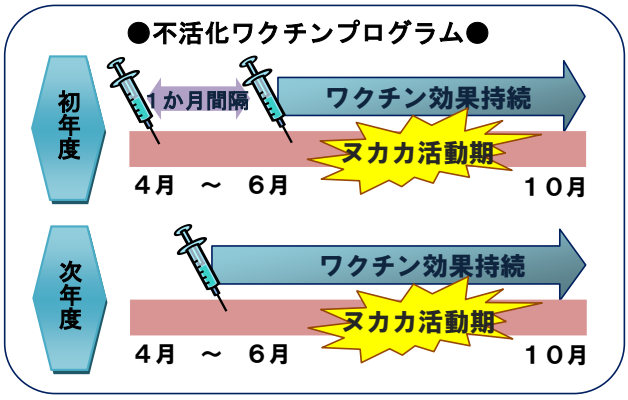
予防策としてワクチン接種が挙げられますが、やはり消毒等の徹底による病原体の侵入阻止が有効です。飼養衛生管理基準の遵守により、衛生管理区域を明確にし、区域内に出入りする車・人・物は最小限とし、消毒は徹底的に行う事が肝要です。

こうした防疫対策は、アジア各地で続発している口蹄疫等の重大感染症の防除にも当然有効です。より一層の防疫対策の徹底を宜しく御願いします。　　（土江）

★アカバネ病予防ワクチンを接種しましょう！



アカバネ病は、アカバネウイルスをもったヌカカなどの媒介によって牛や豚などが感染する病気です。症状のタイプは大きく分けて二つあり、妊娠中の動物に感染して死流産や異常子の分娩を起こす**胎子感染**と、年齢や性別、妊娠の有無を問わず感染して起立不能などの神経症状を起こす**生後感染**があります。アカバネ病は全国でほぼ毎年発生しており、ワクチン未接種で産歴が低い牛ほど発生しやすい傾向で、経済的被害が大きいとされています。



島根県では平成20年から21年に胎子感染が、23年に生後感染が多発しました。

治療法はなく、予防法はワクチン接種です。春、ヌカカの活動期前に初年度は2回、次年度からは1回注射します（牛異常産混合不活化ワクチン）。**ワクチン接種でアカバネ病等のウイルス性異常産を予防しましょう！**　　（廣江）

★第42回 家畜人工授精優良技術発表全国大会で発表！！

第 42 回家畜人工授精優良技術発表全国大会が 2 月 13 日（木）東京都港区ヤクルトホールで開催されました。

全国名だたる畜産県の北海道、岩手、宮城、千葉、兵庫、宮崎、鹿児島県から 11 名の発表があり、本県からは、昨年 11 月 15 日に県畜産技術センターで開催された県の発表会で島根県知事賞を受賞された島根県家畜人工授精師協会出雲支部の川上哲也さんが発表されました。

川上さんは、

＜繁殖台帳 Web システムを活用した乳用牛群管理＞

の演題で発表されました。

川上さんは、就農 4 年目ですが、就農当所から①牛群検定の積極的利用、②高能力牛群の早期造成、③事故低減対策の徹底、④安定した収益の確保の 4 つを「経営方針 4 つの柱」として酪農経営を行い、繁殖台帳 Web システムというツールを最大限活用し、①乳量・乳質の向上、②繁殖成績の向上、③事故率の低減、④収益のアップに繋げています。

講評では、繁殖台帳 Web システムの活用で繁殖成績が向上したことについて評価を受けました。併せて今後は、地域の指導的立場で、牛群検定および繁殖台帳 Web システムの普及・推進に働いて欲しいとの激励がありました。

残念ながら、西川賞の受賞には至りませんでしたが、今後さらなる実績と技術を習得して、次回の発表では西川賞に期待したいと思います。（高橋）

★平成25年度　島根県畜産関係機関業績発表会が開催されました！

1月21日、島根県庁にて島根県畜産関係業績発表会が開催されました。

この発表会は、畜産に関する試験・研究等の業績について発表討議を行い、知識及び技術の情報交換及び普及を図ることを目的として、毎年開催されています。家畜保健衛生所（松江、出雲、江津、益田）、家畜病性鑑定室及び畜産技術センターから16題の発表があり、当所からは次の2題を発表しました。

○牛ウイルス性下痢ウイルス感染牛の導入による農場内ウイルス伝播と対策

管内の一酪農場において県外からの導入牛1頭が牛ウイルス性下痢（BVD）ウイルス持続感染（PI）牛と摘発され淘汰した。当該農場は導入牛の一時繋留場所として乾乳牛パドックを使用しており、搾乳牛群とは一定の間隔が設けられており、それにより搾乳牛群へのウイルス侵入が限局的となり、産仔 PI 牛も 1 頭摘発するだけに留まった。

BVDV の拡大防止には、検査結果が判明するまでは導入牛を隔離する重要性を確認した。

（土江）

○管内牛白血病発生状況と一酪農家の水平感染対策

牛白血病は全国的に近年増加している。県内においても徐々に発生が増加しており、平成25年の発生頭数は14頭だった。60か月齢以上のホルスタイン種での発生が多いが、若齢の黒毛和種においても散発している。平成25年に管内でも、21か月齢の繁殖牛と、28か月齢の去勢牛が牛白血病と診断された。と畜場で診断されると全廃棄となり、家畜共済も適用されないため近年肥育農家で問題となっている。生まれてから牛白血病ウイルス（BLV）に感染するまでの期間が短いほど、若齢での発症リスクが高まるため、肥育素牛を生産する繁殖農家や和牛子牛を生産する酪農家での対策が重要。

平成23年度から牛白血病対策に取り組む管内の酪農家が、農林水産省の事業の実証農場に選ばれた。今年度は搾乳群のうち BLV 非感染牛を2群に分け、一方に6月から9月の間、週に1回牛体に忌避剤を噴霧し、夏季の感染陽転の有無を調べたが、両群ともに陽転は無かった。これには、アブの発生状況、陽性牛のウイルス保有状況の関与が考えられる。来年度はより効果的な使用方法を検討したい。

（尾﨑）

○編集後記

ついこの前お正月だった気がするのに、気づけばもう3月になり…春らしい天気になってきましたね。花粉症の私は鼻のムズムズで春を感じる今日この頃。花粉シーズンも早く過ぎて欲しいです。　（尾﨑）